

29M-am06

レジニフェラトキシンの合成研究

○加藤 駿一郎¹, 村井 耕一¹, 占部 大介¹, 井上 将行¹(¹東大院薬)

【目的】レジニフェラトキシン(**1**)は、*Euphorbia resinifera* から単離・構造決定された、強力な鎮痛活性を示すダフナンジテルペンである。**1** は、トランス縮環した 5/7/6 員環上に多くの酸素官能基を有し、分子内オルトエステルを持つ。我々は、天然に数多く存在するダフナンジテルペン類の、網羅的合成を視野に入れ、**1** の全合成を計画した。今回、**1** の C 環の立体選択的合成に成功した。

【方法・結果】既知の光学活性な **2** (Kotsuki, H. et al. *Tetrahedron Lett.* **1991**, *32*, 4503) から 8 工程で **3** を合成した。**3** の 6 員環に対して、convex 面選択的な変換反応を経て、5 つの連続する不斉中心と分子内オルトエステルを有する **4** を得た。その後、**4** のビニルエーテルをフェニルセレニドへと変換することで、**1** の C 環を有する **5** の合成に成功した。

